

② 高等学校進学以降の段階における現状と課題

高等教育段階 (教育の質の向上)

【これまでの取組】

- 各大学等の使命や機能に応じた多種多様な教育展開
- 教育研究拠点の形成やネットワーク化への支援 など

【課題】

- 社会の期待に応えるスピード感ある改革
- 学修時間の少なさ
- 外国人留学生・海外に留学する学生の少なさ
- 社会人入学者割合の低さ
- 専門学校における質保証・向上
- 社会経済構造の変化に対応した高等教育修了者の質・量両面の充実 など

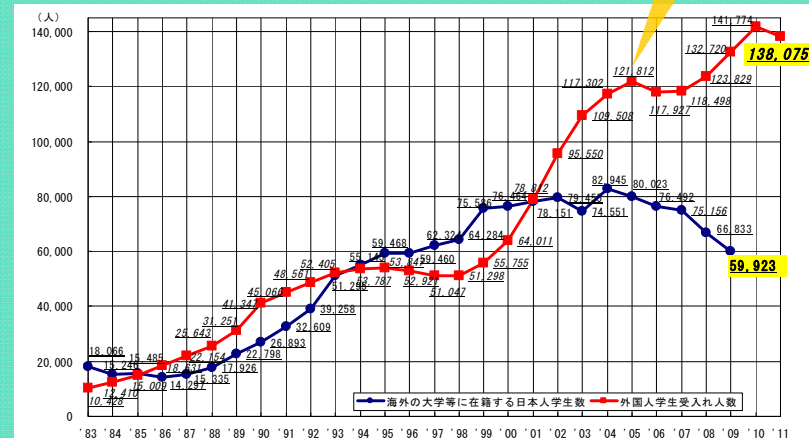
25歳以上の学士課程への入学者数割合



H24
日本: 1.9%
OECD平均: 20.3%

派遣: 59,923人
受入れ: 138,075人

日本人の海外留学者数



大学生の学修時間

授業に関する学修時間が0～5時間の大学一年生
日本: 66.8% 米国: 15.6%

授業に関連する学修時間が1週間あたり21時間以上の大学一年生
日本: 4.3% 米国: 19.3%

大学生の活動時間の分布
授業、授業関連の学修、卒論: 4.6時間(計8.時間中)

（大学ガバナンスの強化）

【これまでの取組】

- ・大学の機能別分化や大学間連携 ・法人化後の管理運営面や教育・研究・社会貢献等の向上 など

【課題】

- ・学長のリーダーシップを支える体制強化
- ・教授会の在り方
- ・教育研究の状況や財務情報等の公開
- ・各大学の強み・特色が伸張するとともに、大学の質の向上に繋がる効率的な大学経営 など

（学修機会の均等）

【これまでの取組】

- ・授業料減免や奨学金の充実 など

【課題】

- ・家計の教育負担割合の高さ
- ・低所得世帯の学生等への教育費負担軽減 など

③ 生涯学習に関する現状と課題

【これまでの取組】

- 各大学や専修学校等における社会人受入れの促進、履修証明制度の創設
- 国・地方、民間企業における多種多様な教育サービスの提供
- 地域の多様な人材を活用した家庭教育支援 など

【課題】

- 大学等への社会人入学者割合の低さ
- 離職率の高さ
- 学習成果の評価・活用
- 現代的・社会的課題への対応や困難を抱える者への学習機会の提供
- 学習活動を通じた地域活動の推進
- 多様な主体による社会教育事業の展開
- 教育・保健福祉分野の取組の連携・協力による家庭教育支援 など

1年間に生涯学習を行ったことがあると
回答した人の割合

48.6%

第1期計画の総括と今後の方向性

【第1期計画の総括】

- ・第1期計画に掲げる「10年間を通じて目指すべき教育の姿」の達成は未だ途上
- ・教育格差の問題、コミュニティとの協働やICTの活用の重要性、イノベーションの創出の必要性など新たな課題も浮上
- ・これまでの教育政策の在り方全体を検証しつつ、より未来志向の視点が必要

- 義務教育修了までに、すべての子どもに自立して社会で生きていく基礎を育てる
- 社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てる

【これまでの教育改革】

- ・第1期計画の策定など、様々な改革努力により教育諸条件は向上
- ・しかし、学習・学修時間が低い水準にあることなど、繰り返し指摘されてきた諸課題は未解決のものが多く、より複雑化・顕在化
- ・また、近年新たに生じた課題についても、必ずしも全てに十分に対応できているとは言えない

【諸課題が依然として指摘される要因の例】

- ・個々人の多様な強みを引き出す視点の不足
- ・学校段階間や学校・社会生活間の接続の不足
- ・十分なPDCAサイクルの不足